

大学院医歯学総合研究科

PDCA 医療クオリティマネージャー養成
プログラム

(履修証明プログラム)

履修要項

2019 年度

東京医科歯科大学大学院

目 次

1. PDCA 医療クオリティマネージャー養成プログラムのカリキュラム	1
2. 2019年度 PDCA 医療クオリティマネージャー養成プログラム時間割	2
3. 授業科目の講義内容	
＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論	
(1) 医療データ分析概論	3
(2) DPC データ分析	5
(3) 臨床指標分析	7
(4) BI ツール分析	9
(5) 臨床疫学研究分析	11
＜2＞医療実データを用いたクオリティ・マネジメント PDCA 実践プログラム	
(1) PDCA サイクルに基づく医療の質の改善	13
(2) PDCA サイクルに基づく医療安全推進	15
(3) PDCA サイクルに基づく医療感染制御の確保	17
＜3＞大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻医療管理政策学（MMA）コース開設科目	
(1) 医療と社会の安全管理	19
(2) 医療機関リスク管理	21
(3) 医療の TQM	23
(4) 医療機能評価	25
(5) 病院情報管理学	27
(6) 診療情報管理学	29
(7) 衛生工学・汚染管理	31
(8) 戦略と組織	33
(9) 医療におけるリーダーシップ論	35
(10) 健康情報データベースと統計分析	37
＜4＞ワークショップ	
(1) ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論	39
4. 諸規則	40
○東京医科歯科大学における履修証明プログラムに関する規則	
5. 教室案内図	42

「PDCA 医療クオリティマネージャー養成」カリキュラム

【1】履修証明プログラム開設科目（必修 120 時間、自由 150 時間）

	科目名	必修／自由	単位数	時間数
＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論	医療データ分析概論	必修	—	15h
	DPC データ分析	必修	—	15h
	臨床指標分析	必修	—	15h
	BI ツール分析	必修	—	15h
	臨床疫学研究分析	必修	—	15h
＜2＞医療実データを用いたクオリティ・マネジメント PDCA 実践プログラム	PDCA サイクルに基づく医療の質の改善	必修	—	15h
	PDCA サイクルに基づく医療安全推進	必修	—	7.5h
	PDCA サイクルに基づく医療感染制御の確保	必修	—	7.5h
＜3＞大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工学専攻医療管理政策学（MMA）コース開設科目	医療の TQM	自由	1※	15h
	医療機能評価	自由	1※	15h
	医療と社会の安全管理	自由	1※	15h
	医療機関リスク管理	自由	1※	15h
	衛生工学・汚染管理	自由	1※	15h
	病院情報管理学	自由	1※	15h
	診断情報管理学	自由	1※	15h
	健康情報データベースと統計分析	自由	1※	15h
	戦略と組織	自由	1※	15h
	医療におけるリーダーシップ論	自由	1※	15h
＜4＞ワークショップ	ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論	必修	—	15h

（必修 120 時間、自由 150 時間）

※全て自由科目とする。なお、履修する場合は、大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻医療管理政策学（MMA）コースが開設する授業科目であるため、科目等履修生として履修することとし、単位を付与する（10 単位 150 時間）。

【2】修了要件

＜1＞＜2＞＜4＞に示す全ての科目に合格すること。ただし、＜3＞については、自由科目とする。

【3】修業年限

1 年

【4】履修対象者

医療の質保証、安全管理、感染制御等の業務を担うとともに、医療機関の組織マネジメントに関与する意欲のある医師、後期研修医、医師管理職及び医療従事者。

なお、大学院修士課程に相当するカリキュラムであるため、学部卒業程度の学歴があることを出願要件とする。

2019年度 PDCA医療クオリティマネージャー養成プログラム時間割

月	日	時限	月	火	水	木	金	土	日	整理番号	講義室	科目責任者	備 考
4月	1～7	9:30～16:40							<1>1. 医療データ分析概論	<1>1	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	伏見 清秀	
	8～14	9:30～16:40							<1>1. 医療データ分析概論	<1>1	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	伏見 清秀	
	15～21	—								—	—	—	
	22～28	—								—	—	—	
5月	4/29～5/5	—	振 替 日							—	—	—	
	6～12	9:30～16:40	振 替 日						<1>2. DPCデータ分析	<1>2	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	今井 志乃ぶ (国立病院機構)	
	13～19	9:30～16:40							<1>2. DPCデータ分析	<1>2	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	今井 志乃ぶ (国立病院機構)	
	20～26	18:00～21:10	<3>3. 医療と社会の安全管理 (MMAコース)						<3>3. 医療と社会の安全管理 (MMAコース)	<3>3	大学院講義室2 (M&D9F-13階)	河原 和夫	
	5/27～6/2	<1>3 9:30～16:40 <3>4 18:00～21:10	<3>4. 医療機関リスク管理 (MMAコース)						<1>3. 臨床指標分析	<1>3 <3>4	大学院講義室1 (M&D9F-21階) 大学院講義室2 (M&D9F-13階)	森脇 睦子 高瀬 弘充	
6月	3～9	<3>6 18:00～21:10	<3>6. 病院情報管理学 (MMAコース)						<3>6. 病院情報管理学 (MMAコース)	<3>6	大学院講義室2 (M&D9F-13階)	高瀬 浩造	
	10～16	<1>3 9:30～16:40 <3>2 18:00～21:10	<3>2. 医療機能評価 (MMAコース)						<1>3. 臨床指標分析	<1>3 <3>2	大学院講義室1 (M&D9F-21階) 大学院講義室2 (M&D9F-13階)	森脇 睦子 河原 和夫	
	17～23	9:30～16:40							<1>4. BIツール分析	<1>4	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	石川ヘンジヤミ光一 (国際医療福祉大学)	
	24～30	13:30～16:40							<1>4. BIツール分析	<1>4	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	石川ヘンジヤミ光一 (国際医療福祉大学)	
7月	1～7	<1>4 13:30～16:40 <1>5 9:30～12:40 <3>6 18:00～21:10	<3>6. 病院情報管理学 (MMAコース)						<1>4. BIツール分析 <1>5. 臨床疫学研究	<1>4 <1>5 <3>6	大学院講義室1 (M&D9F-21階) 大学院講義室2 (M&D9F-13階)	石川ヘンジヤミ光一 桑原 比呂世 高瀬 浩造	
	8～14	—								—	—	—	
	15～21	<1>5 9:30～16:40 <3>7 18:00～21:10	<3>7. 診療情報管理学 (MMAコース)						<1>5. 臨床疫学研究	<1>5 <3>7	大学院講義室1 (M&D9F-21階) 大学院講義室2 (M&D9F-13階)	桑原 比呂世 伏見 清秀	
	22～28	13:30～16:40							<1>5. 臨床疫学研究	<1>5	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	桑原 比呂世 (千高大学医学部附属病院)	
8月	7/29～8/4	—								—	—	—	
	5～11	—								—	—	—	
	12～18	—	振 替 日							—	—	—	
	19～25	18:00～20:10	<2>3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保						<2>3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保	<2>3	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	貫井 陽子	
	8/26～9/1	—								—	—	—	
9月	2～8	18:00～20:10	<2>3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保						<2>3. PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保	<2>3	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	貫井 陽子	
	9～15	19:00～21:10	<2>2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進						<2>2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進	<2>2	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	尾林 聡	
	16～22	—	振 替 日							—	—	—	
	23～29	—	振 替 日							—	—	—	
10月	9/30～10/6	<2>2 19:00～21:10 <3>5 18:00～21:10	<3>5. 衛生工学・汚染管理 (MMAコース)						<2>2. PDCAサイクルに基づく医療安全推進	<2>2 <3>5	大学院講義室1 (M&D9F-21階) 大学院講義室2 (M&D9F-13階)	尾林 聡 湯浅 和博 (東京工業大学)	
	7～13	18:00～21:10	<3>9. 戦略と組織 (MMAコース)						<3>9. 戦略と組織 (MMAコース)	<3>9	大学院講義室2 (M&D9F-13階)	林 大樹 (一橋大学)	
	14～20	18:00～20:10	振 替 日							—	—	—	
	21～27	9:30～16:40	振 替 日						<2>1. PDCAサイクルに基づく医療の質の改善	<2>1	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	本橋 隆子 (聖マリアンナ医科大学)	
11月	10/28～11/3	18:00～21:10	<3>9. 戦略と組織 (MMAコース)						<3>9. 戦略と組織 (MMAコース)	<3>9	大学院講義室2 (M&D9F-13階)	林 大樹 (一橋大学)	
	4～10	—	振 替 日							—	—	—	
	11～17	9:30～16:40							<2>1. PDCAサイクルに基づく医療の質の改善	<2>1	大学院講義室1 (M&D9F-21階)	本橋 隆子 (聖マリアンナ医科大学)	
	18～24	18:00～21:10	<3>1. 医療のTQM (MMAコース)						<3>1. 医療のTQM (MMAコース)	<3>1	大学院講義室2 (M&D9F-13階)	高瀬 浩造	
	25～12/1	18:00～21:10	<3>8. 健康情報データベースと統計分析 (MMAコース)						<3>8. 健康情報データベースと統計分析 (MMAコース)	<3>8	大学院講義室2 (M&D9F-13階)	高瀬 浩造	
12月	2～8	—								—	—	—	
	9～15	<3>10 18:00～21:10 <4> 9:30～16:40	<3>10. 医療におけるリーダーシップ論 (MMAコース)						<4> ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論	<3>10 <4>	大学院講義室2 (M&D9F-13階) 大学院講義室1 (M&D9F-21階)	田中 雄二郎 伏見 清秀	

- :<1>クオリティ・マネジメント・データ分析概論(5科目)
 - :<2>医療実データを用いたクオリティ・マネジメントPDCA実践プログラム(3科目)
 - :<3>大学院医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻医療管理政策学(MMA)コース科目(自由科目)
 - :<4>ワークショップ形式による学習成果発表と総合討論(1科目)
- ※MMA科目分の日程については変更となる可能性があります。

医療データ分析概論

(Health Data Analysis)

科目コード: 9101

15時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	森脇 睦子	医学部附属病院クオリティ・マネジメント・センター 特任講師	mmoriwaki.qmc@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・近年、DPCデータ、電子レセプトデータ等の医療アドミニストラティブデータの可用性が高まり、入手、分析が容易になってきている。これらのデータを用いた医療の分析、評価能力は医療クオリティマネージャーに必要とされる基本的な資質といえる。
- ・医療データ分析概論では、本PDCA医療クオリティマネージャー養成コースで学ぶ上で必要となる基礎的情報リテラシーを習得することを目標とする。
- ・授業では、これらの医療データのoverviewを示すとともに、様々な分析手法、分析ツールを示す。さらに、利用可能な公開データ等を用いて、基本的なデータ分析手法、洞察力を身につけるための分析演習と発表、討論を行う。

概要

第1日午前:オリエンテーション、医療データ総論、ケースミックス分析講義

第1日午後:ケースミックス分析演習・課題発表、地域医療分析講義

第2日午前:地域医療分析演習

第2日午後:プロセス分析講義、地域医療分析演習・課題発表、年間課題研究テーマ発表・総合討論

4. 授業の到達目標

- ・分析、研究に利用可能な我が国の医療データの概要を理解すること。
- ・医療データを用いた様々な医療評価手法の価値、限界、応用方法を理解すること。
- ・医療アドミニストラティブ(管理)データの概念とその利用手法を理解すること。
- ・医療アドミニストラティブデータを用いた医療の質、安全、感染制御等の評価の概要を理解すること。
- ・医療アドミニストラティブデータの分析用のツールの概要を理解すること。
- ・公表されているDPCデータ、患者調査データ等の活用手法を理解すること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席(50点)、発表(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

- ・本授業を受講するにあたり、Microsoft Excelを用いた基本的な分析等ができるよう準備しておくこと
- ・我が国の医療制度、診療報酬制度の概要についての基礎知識を習得しておくこと

9. 参考書

「診療情報による医療評価」(東京大学出版会)
DPCデータ活用ブック第2版(じほう)

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するためには、Microsoft Excelを用いた基本的な分析能力を持つことが求められる。

11. オフィスアワー

平日10時～18時

12. 備考

別表

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
4月7日(日)	9:30-12:40	医療データ総論・ケースミックス分析講義 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
	13:30-16:40	地域医療分析講義・ケースミックス分析課題発表 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
4月14日(日)	9:30-12:40	地域医療分析実習 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子
	13:30-16:40	プロセス分析講義・地域医療分析課題発表 M&Dタワー21階 大学院講義室1	伏見 清秀 森脇 睦子

DPCデータ分析

(DPC Data Analysis)

科目コード:

9102

15時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	今井 志乃ぶ	国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部 主任研究員	k-shinobu@umin.ac.jp
科目担当者	清水 沙友里	医療経済研究機構 主任研究員	shimizu@ihep.jp
	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・分析手法の基本的な操作。
- ・医療の課題に対し、分析計画を立てる。分析報告資料を作成する。
- ・分析報告会を開き、全員でディスカッションを行う。

概要

第1日目午前:

変数の定義と形式、縦持ち・横持ちデータ等、分析データの形式の理解。医薬品マスタ、手術マスタ、ICD-10等の理解。DPC分科会公表データの理解。

実際のデータを触ってみる。

第1日目午後:

中課題により、分析手法の基本的な操作を習得する。中課題は、病院評価指標作成、臨床指標作成等から基礎的なものを扱う。

第2日目午前:

平均、最大値、最小値等を使いデータを俯瞰した後、後発医薬品指数算出などの大課題に取り組む。

第2日目午後:

発表資料の作成後、分析報告会を行う。

4. 授業の到達目標

- ・診療情報、統計情報等のデータマネジメントと活用方法を理解すること。
- ・診療情報を活用した実習において、経営評価、診療評価等のための分析手法を身につけること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

実習の状況(20%)、出席(40%)および課題発表(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業を受講するにあたり、Microsoft Excelを用いた基本的な分析等、本授業の前に受けた講義内容を復習しておくこと。

9. 参考書

伏見清秀 監修・今井志乃ぶ 著 経営力・診断力を高めるDPCデータ活用術・増補改定版(日経ヘルスケア)

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、(1)医療データ分析概論で習得する傷病名コーディング、DPC・レセプトデータから取得できる医療情報に関する基本的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

授業後

12. 備考

別表

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
5月12日(日)	9:30-12:40	講義の進め方についての解説と簡単なデータ操作、各種マスタの理解 M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ
	13:30-16:40	分析手法の基本的な操作を習得 M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ
5月19日(日)	9:30-12:40	分析が複雑な課題に取り組む M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ 清水 沙友里
	13:30-16:40	問題解決型の発表資料を作成し、発表を行う。 ディスカッションに参加する。 M&Dタワー21階 大学院講義室1	今井 志乃ぶ 清水 沙友里 伏見 清秀

臨床指標分析

(Quality Indicator Analysis)

科目コード: 9103

15時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	森脇 睦子	医学部附属病院クオリティ・マネジメント・センター 特任講師	mmoriwaki.qmc@tmd.ac.jp
科目担当者	下田 俊二	国立病院機構本部情報システム統括部 システム専門員	shimoda.shunji.ha@mail.hosp.go.jp
	山名 隼人	東京大学大学院医学系研究科ヘルスサービスリサーチ講座 特任助教	yamana-tyky@umin.ac.jp
	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・「医療の質」を測る視点として、Donabedianが示した「ストラクチャー(構造)」、「プロセス(過程)」、「アウトカム(成果)」がよく用いられる。臨床指標は、プロセスやアウトカムを定量的に評価するために利用されている。
- ・授業では、臨床指標や病院機能分析について、基本的な概念や知識を概説する。更に、分析に使用するDPCデータのデータ構造を学ぶとともに、データベースの基本構造についても学習する。
- ・演習では、DPCデータを用いて臨床指標の計測や病院機能分析を行う。
- ・受講生の実務経験や専門的視点から、現状分析や計測方法の検証、結果から導き出される問題点及び改善策等を考案し、現状把握から改善計画までの一連問題解決プロセスを学習する。

概要

第1日目: 午前

- ・臨床指標の歴史的経緯、基本的概念とその活用法に関する方略を概説する。
- ・データベースの基本構造、DPCデータの構造の概説、アクセスの基本操作の演習を実施する。

第1日目: 午後

- ・既に国立病院機構で活用されている「臨床評価指標」の中から数指標を選び、アクセスを用いて算出する(様式1、EFファイルを使った分析)。

第2日目: 午前

- ・臨床指標の実務的な活用例と臨床指標に関する研究について概説する。

第2日目: 午後

- ・これまで授業で実施した分析手法を活用して、改善に必要な臨床指標を作成し、作成の意図、算出ロジック、想定される結果、改善計画の骨子を取りまとめる。
- ・取りまとめた内容について全体討議する。

4. 授業の到達目標

- ・医療の質の可視化における臨床指標に関する基本的な知識と分析手法を習得する。
- ・臨床指標による質管理の実際を理解する。
- ・DPCデータを活用した臨床指標の計測および診療機能分析の実践的活用方法を理解する。
- ・診療情報、統計情報等のデータマネジメントと研究的活用方法を理解する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

グループでの作業参加状況(20%)、出席(40%)およびレポートの提出(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業を受講するにあたり、Microsoft Excelを用いた基本的な分析等、本授業の前に受けた講義内容を復習しておくこと。

9. 参考書

「DPCデータ活用ブック」(じほう)

「医療の質の標準化と改善」(南山堂)

「国立病院機構 臨床評価指標2014(外部版)」

「国立病院機構臨床評価指標 計測マニュアル2014年」

「院内ビッグデータ分析による病院機能高度化」(じほう)

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、(1)医療データ分析概論で習得する傷病名コーディング、DPC・レセプトデータから取得できる医療情報に関する基本的な知識および、(2)DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力が必要である。

11. オフィスアワー

授業後

12. 備考

別表

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
6月2日(日)	9:30-12:40	・臨床指標に関する総論 ・データベースの基本構造の理解(演習) M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 下田 俊二
	13:30-16:40	アクセスの基本操作, 臨床指標の計測 M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 下田 俊二
6月16日(日)	9:30-12:40	臨床指標の活用 M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 下田 俊二 山名 隼人
	13:30-16:40	全体討議 M&Dタワー21階 大学院講義室1	森脇 睦子 下田 俊二 山名 隼人 伏見 清秀

BIツール分析

(BI Tool Analysis)

科目コード: 9104

15時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	石川ベンジャミン光一	国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 医療マネジメント学科 大学院医学研究科 教授	kishikaw@ncc.go.jp
科目担当者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	清水 沙友里	医療経済研究機構 主任研究員	shimizu@ihep.jp
	新城 大輔	国立成育医療研究センター 情報解析室長	d-shinjo@umin.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・比較的低価で高機能なBIツールのTableauを用いて、BIツールの基本的な使用方法を理解するために、基本的な演習とデータ分析実習を行う。
- ・次いで、病院組織マネジメント、患者マーケティング、地域医療分析、診療プロセス分析に関する具体的な課題に対して、データ提示、分析方針概説、データ分析実習、分析結果講評等を含む実習を行い、医療データ分析の考え方と分析手法を身につける。
- ・最終日には、グループ毎の実習結果の発表とグループ・ディスカッションによって、医療データ分析の考え方を深める。

概要

第1日目: 午前

- ・ビジュアルなデータ分析ツールであるTableauの基本的な操作方法を習得する
- ・様式1データを利用したケースミックス分析と地図を用いた診療圏分析を行う

第1日目: 午後

- ・EFファイルによる診療明細情報を利用して、日単位での診療プロセスを可視化する

第2日目: 午後

- ・BIツールにより可視化した結果を用いた課題解決のアプローチについて学ぶ
- ・BIツールによるデータ分析から得られた「気づき」を伝えるための資料をまとめる

第3日目: 午後

- ・実習結果の発表とグループディスカッションを通じて医療データ分析への理解を深める

4. 授業の到達目標

- ・大規模医療データの探索的な分析手法を理解すること。
- ・ビジネス・インテリジェント(BI)ツールの機能を理解して医療データの分析方法を身につけること。
- ・病院組織マネジメント、患者マーケティング、地域医療分析、診療プロセス評価のためのBIツールを用いた医療データ分析手法を身につけること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

ディスカッション参加状況(30%)、出席(30%)およびレポート(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

本授業以前の講義でのデータ分析手法を習得していることが必要である。

9. 参考書

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、(1)医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識、(2)DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力が必要である。

11. オフィスアワー

授業の前後、特に6月30日と7月7日については、午前中に希望に応じて個別指導を設ける。

12. 備考

別表

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
6月23日(日)	9:30-12:40	ケースミックスと診療圏の可視化 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一 清水 沙友里
	13:30-16:40	日単位の診療プロセスの可視化 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一 清水 沙友里 新城 大輔
6月30日(日)	13:30-16:40	可視化したデータの活用 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一 新城 大輔
7月7日(日)	13:30-16:40	分析事例発表と総合討論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	石川ベンジャミン光一 新城 大輔 伏見 清秀

臨床疫学研究

Clinical Epidemiology

科目コード: 9105

15時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	桑原 比呂世	千葉大学医学部附属病院	bxx03410@nifty.ne.jp
科目担当者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	清水 沙友里	医療経済研究機構 主任研究員	shimizu@ihep.jp
	今井 志乃ぶ	国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部 主任研究員	imai-shinobu@hosp.go.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・ DPCデータを用いた既存臨床疫学研究論文のover viewによって、医療アドミニストラティブ・データを用いた研究の手法、特徴、限界点を理解する。
- ・ 次に、病院の実DPCデータを用いて、研究立案、データ抽出、統計解析、結果の解釈、論文化へ向けた課題検討等の臨床疫学研究の模擬実施を行う。小グループでの検討を行い、実習結果の発表とディスカッションによって研究手法を理解する。

概要

- 第1日午前 : 臨床疫学研究の手法や統計解析についての講義と医療アドミニストラティブ・データによる研究事例の検討
第2日午前 : 医療アドミニストラティブ・データを用いた臨床疫学研究の立案およびサーチクエッション作成の実習
第2日午後 : 医療アドミニストラティブ・データを使って行われた臨床疫学研究論文の検討と批判的吟味
第3日午後 : 実習結果発表と総合討論

4. 授業の到達目標

- ・ 医療アドミニストラティブ(管理)・データを利用した臨床疫学研究の概要、利点、限界点を理解すること。
- ・ DPCデータ等から臨床疫学研究に必要なデータセットを抽出し、各種統計分析等を行えること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席(30点)、発表(30点)およびレポート(40点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

医療データ分析概論、DPCデータ分析演習、臨床指標分析演習、BIツール分析演習の内容を理解していること

9. 参考書

「医療の質の標準化と改善」(南山堂)

10. 履修上の注意事項

11. オフィスアワー

平日10時より18時

12. 備考

別表

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
7月7日(日)	9:30-12:40	臨床疫学研究の手法や統計解析の概要 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世
7月21日(日)	9:30-12:40	病院データを用いた臨床疫学研究の立案 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世 清水 沙友里
	13:30-16:40	病院データを用いて行われた臨床疫学研究 論文の批判的吟味 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世 今井 志乃ぶ
7月28日(日)	13:30-16:40	研究計画の発表と総合討論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	桑原 比呂世 清水 沙友里 今井 志乃ぶ 伏見 清秀

PDCAサイクルに基づく医療の質の改善

(PDCA Quality Improvement Practice)

科目コード:

9201

23時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	本橋 隆子	聖マリアンナ医科大学予防医学教室 助教	motohashi-takako@marianna-u.ac.jp
科目担当者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
	森脇 睦子	医学部附属病院クオリティ・マネジメント・センター 特任講師	mmoriwaki.qmc@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表1のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

PDCA サイクルに基づく医療の質の改善の講義(以下 PDCA 実習)では、実践力の習得を目的とし、1)学内演習型講義、2)病院実習型講義、3)ワークショップ(成果発表)を実施する。

概要

医療の質の改善の取り組みでは、医療とデータに関する知識とそれに基づくデータ分析力、そして、その分析結果を臨床現場のスタッフと議論する能力が求められる。

PDCA 実習では、臨床指標の測定結果を多角的な視点で分析し、データから原因や問題点を探っていく。また、データ分析結果について、臨床現場の医師やスタッフと議論し、ヒアリングを行う。データによる分析結果と臨床現場のヒアリング結果の両面から現状の問題点を整理し、医療の質の改善のための計画立案を行う。本実習では、これらの実践的な手法を体得する。

4. 授業の到達目標

- ①臨床評価指標の測定結果を多角的な視点で分析できる。(PDCAの「C」)
- ②臨床現場のスタッフとデータに基づく議論ができる。(PDCAの「A」)
- ③分析結果とヒアリングから問題点を抽出し、改善計画を提案できる。(PDCAの「P」)
- ④PDCAサイクルの総マネジメントができる。医療アドミニストラティブ

5. 授業方法

講義形式・演習形式・病院実習形式による。

6. 授業内容

別表2のとおり。

7. 成績評価の方法

以下の3点を総合的に勘案して評価する。

- ①プレゼンテーション資料(40%)
- ②プレゼンテーション(40%)
- ③発言頻度(20%)

8. 準備学習等についての具体的な指示

臨床指標分析演習の講義の内容を理解してと分析手法を習得しておくことが必要

9. 参考書

ゼロからはじめる病院のPDCA 医療の質の見える化と改善(医歯薬出版株式会社)

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論の（1）医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識、（2）DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力、（3）臨床指標分析演習で習得する臨床指標とその分析方法に関する基礎的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表1

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
10月27日(日)	9:30-12:40	PDCAサイクルに基づく医療の質の改善の総論 M&Dタワー21階 大学院講義室1	本橋 隆子 森脇 睦子
	13:30-16:40	現状分析方法の習得と実践 問題点抽出・計画立案の習得と実践1 M&Dタワー21階 大学院講義室1	本橋 隆子 森脇 睦子
11月17日(日)	9:30-12:40	現状分析方法の習得と実践 問題点抽出・計画立案の習得と実践2 M&Dタワー21階 大学院講義室1	本橋 隆子 森脇 睦子
	13:30-16:40	成果発表 M&Dタワー21階 大学院講義室1	本橋 隆子 森脇 睦子 伏見 清秀

別表2(詳細については、実習前までに決定し、連絡する。)

授業日程(10月27日、11月17日、その他10/28～11/15の間に1日他施設での病院実習を予定(平日))

- 1) 学内講義・演習 (2019年10月27日(日))
- PDCAサイクルに基づく医療の質の改善の総論
 - DPC・レセプトデータを利用した現状分析方法を学び、実践する。
 - 現状分析・問題点抽出・計画立案の方法を学び、実践する。
 - 自院でPDCAサイクルを実践するための指標選択・現状分析・問題点抽出・計画立案までを行う。
- 2) 病院実習(2019年10月28日～11月15日の間の1日(平日))
- 病院を訪問し、院内で行われているPDCAサイクルに基づく医療の質の改善活動を見学する。その後、病院経営陣(院長・副院長・診療統括部長・看護部長)、各診療科医師、医療スタッフと医療の質の改善活動の問題点について議論するとともに、実態についての情報を収集する。
- 3) ワークショップ(成果発表)(2019年11月17日(日))
- 自院でPDCAサイクルを実践するための指標選択・現状分析・問題点抽出・計画立案の発表する。

PDCAサイクルに基づく医療安全推進

Practice for medical safety with PDCA method

科目コード: 9202

7.5時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	尾林 聡	医学部附属病院医療安全管理部 部長	s.obayashi.gyne@tmd.ac.jp
科目担当者	鳥羽 三佳代	医学部附属病院クオリティ・マネジメント・センター 特任講師	tobacrm@tmd.ac.jp
	鈴木 英明	公益財団法人日本医療機能評価機構 理事	hideaki-suzuki@jcqhc.or.jp
	山本 貴章	東京海上日動メディカルサービス株式会社 第三医療部長	t-tamamoto@tokio-mednet.co.jp
	山内 桂子	東京海上日動メディカルサービス株式会社 主席研究員	keiko.yamauchi@tokio-mednet.co.jp
	高橋 弘充	医学部附属病院薬剤部 部長	htakahashi.mpha@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり。

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・医療安全管理とは、医療従事者が専門的視点に基づいて危険を予測し、期待される医療のため、患者とその家族のみならず医療従事者の外的・内的環境を整えるシステムである。管理目標は、単なる医療事故の発生回避だけではなく、最終的には患者と家族および医療従事者が、身体的および精神的にも脅かされたり消耗したりすることのない状態を保証することであり、医療の質の向上に向けた本質的活動である。
- ・授業では医療安全に関する課題について現状把握作業、原因分析作業を経てPDCA計画立案するまでを実際に実習をしながら修得する。

概要

《講義》

1 安全管理部の業務把握

- ・安全管理研修および安全管理部定例会への参加、個別事例対応の見学

2 安全管理レポート分析

- ・安全管理レポートに基づく具体例への対応

3 医療安全施策と医療事故に対する倫理と法的問題

- ・産科医療補償制度、医療事故調査制度について理解
- ・医療事故による訴訟事案などについて事例から学ぶ

《実習》

講義前の1時間を自習時間とし、医療安全に関する課題について現状把握・原因分析作業を行い、データに基づいた問題解決PDCA計画立案を行い発表する。

4. 授業の到達目標

- ・医療事故およびエラーの発生要因ならびに背景要因を科学的に分析し、再発防止案を立案することができる。
- ・医療機関・教育機関において安全で質の高い医療を行いエラーを防止する目的で、実践、研究および教育を行うためのリーダーシップがとれる。

5. 授業方法

講義と実習

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

以下の3点を総合的に勘案して評価する。

①出席状況 ②プレゼンテーション ③発言頻度 ④提出レポート

・提出レポート（50点） その他（50点）

・成績の評価は、出席状況、講義・討議・実習への参加状況や発言状況から判断し、さらに研究内容、各種のグループワークにおける研究への参画状況などによって行う。

・提出レポートは研究内容および考案（考察）をもとに評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

医療安全は、①安全管理体制の構築、②医療安全に関する職員への教育・研修、③医療事故防止のための情報収集、分析、評価、改善策立案、④医療事故発生時の対応、⑤対象とする関係者における安全文化の醸成の5項目を最終的な目的としている。このため、講義前の準備として、これら5項目に対して一定の予備知識を有しておくことが望ましい。

9. 参考書

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論の（1）医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識、（2）DPC分析演習で習得するDPCデータの基礎的な分析能力、（3）臨床指標分析演習で習得する臨床指標とその分析方法に関する基礎的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

授業日程（9月9日～11日、10月4日）

授業日時		授業内容及び開催場所	担当教員
9月9日（月）	19:00-21:10	安全管理部体制説明・見学 M&Dタワー21階 大学院講義室1	尾林 聡 鳥羽 三佳代 山内 桂子
9月10日（火）	19:00-21:10	医療安全分析手法・コミュニケーションの重要性 M&Dタワー21階 大学院講義室1	鳥羽 三佳代 鈴木 英明
9月11日（水）	19:00-21:10	手術関連医療安全総論から各論まで M&Dタワー21階 大学院講義室1	鳥羽 三佳代 山本 貴章
10月4日（金）	19:00-21:10	課題発表会 M&Dタワー21階 大学院講義室1	尾林 聡 鳥羽 三佳代

PDCAサイクルに基づく医療感染制御の確保

(PDCA Infection Control Practice)

科目コード:

9203

7.5時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	貫井 陽子	医学部附属病院感染制御部 部長	y-nukui.infe@tmd.ac.jp
科目担当者	羽田野 義郎	医学部附属病院感染制御部	
	渡邊 由香		
	千葉 尚子		
	相曾 啓史		
	園部 一成		
	坂本 史衣	聖路加国際病院QIセンター	
	森脇 睦子	医学部附属病院クオリティ・マネジメント・センター 特任講師	

2. 主な講義場所

別表のとおり

3. 授業目的・概要等

授業目的

PDCAを用いた感染制御活動の改善手法を身につける。

概要

・当院の感染制御活動の実例を紹介し、サーベイランスとして日常集積されている情報と感染管理システムを活用しながら以下の項目のマネージメントについて理解する。

- 1) 自施設のサーベイランスデータを他施設、全国データと比較し適切な評価を行う。
- 2) 感染管理上の問題点ないしその「芽」となりうるシグナルを抽出する。
- 3) シグナルの意味する問題とその指標となる因子を設定する。
- 4) 問題点の改善または「芽」の段階で解消するための介入策を立案する。
- 5) 介入策実施またはそれをシミュレーションし、アウトカムの評価を行う。
- 6) プロセスを総括し、改善案の考察、といったPDCAサイクルを実体験しマネージメント能力を養成する。

4. 授業の到達目標

- ・院内感染の発生要因ならびに背景要因を科学的に分析し、再発防止案を策定することができる。
- ・医療機関・教育機関において迅速な感染対策を実施し、多職種連携及びリーダーシップをとることができる。

5. 授業方法

授業・実習形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

以下の3点を総合的に勘案して評価する。

①出席状況 ②プレゼンテーション ③発言頻度 ④提出レポート

・ 提出レポート（50点） その他（50点）

・ 成績の評価は、出席状況、講義・討議・実習への参加状況や発言状況から判断し、さらに研究内容、各種のグループワークにおける研究への参画状況などによって行う。

・ 提出レポートは研究内容および考案（考察）をもとに評価を行う。

8. 準備学習等についての具体的な指示

9. 参考書

基礎から学ぶ医療関連感染対策 改定第二版 南江堂

10. 履修上の注意事項

本授業を受講するには、＜1＞クオリティ・マネジメント・データ分析概論方法論の（1）医療データ分析概論で習得する医療データに関する基本的な知識が必要である。

11. オフィスアワー

平日9時から17時

12. 備考

希望者は事前に連絡の上、毎週木曜日11:00-13:00に実施している感染制御ラウンドへの参加も可能である。

別表（詳細については、実習前までに決定し、連絡する。）

授業日程（8月19日～21日、9月2日）

第1日目～3日目

・ 感染対策上重要な微生物の知識、医療器具関連サーベイランス、院内ラウンド、抗菌薬適正使用、結核の臨床と対応、職業感染対策についての理解を深める。

・ 感染対策上重要な問題点に関する課題（手指衛生、抗菌薬適正使用、職業感染対策、デバイス関連サーベイランスなど）から一つ選択する。

第4日目

・ 第一週で選択した課題の院内感染対策上の意義と現状の問題点を明確化する。

・ 指標となる項目に対して介入策を策定する。

・ 介入策が感染対策上、また医療の質改善のためにどのような意義があるかを考察し議論を行う。

・ 介入後の評価方法を策定しそのための指標を設定する。

・ これまでの過程を総括し、発表を行う。参加者とともにディスカッションを行い自施設での応用などにつき議論を深める。

医療と社会の安全管理

Safety management system in the medical facilities and in society

科目コード: 4021 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	谷川 武	順天堂大学 公衆衛生学教室 教授	t-sekiyama@juntendo.ac.jp
	金谷 泰宏	国立保健医療科学院 部長	kanatani.y.aa@niph.go.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・社会全体の安全対策・危機管理政策の概要
- ・医療安全対策(血液事業の安全対策も含む)
- ・生活習慣等に起因する個人の健康危機の実態及びその予防・治療方策の概要
- ・原子力災害に関する職域等での健康危機管理
- ・患者・市民の立場に立った医療安全対策

概要

医療安全の推進が叫ばれて久しいが、安全・安心の社会を保持することは医療だけの問題ではなく、首都直下型地震や新型インフルエンザ、原子力関連事故等の医療に関わる健康危機管理事象への備えも必要である。加えて生活習慣等に起因する健康危機に対する個人レベルでの健康管理も現代社会では重要な課題となっている。講義では、これらの社会的要請が強い事象に関して、保健医療上の問題の本質を理解し、安全対策を進める上で不可欠な政策について言及する。また、諸外国の実情についても分析を行っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業の到達目標

- ・現代社会における危機管理について概説できる。
- ・生活習慣等に起因する個人の健康危機の実態、予防・治療方策について説明できる。
- ・国および地域における健康危機管理・防災対策を説明できる。
- ・医療安全対策に関する取り組みを概説できる。
- ・血液事業の安全対策に関する取り組みを概説できる。
- ・新興・再興感染症の定義、疫学、近年の国内外の感染症アウトブレイクを概説できる。
- ・大規模震災対策(天災・人災)に対処すべき課題と必要な政策について説明できる。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポート内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

過去の医療事故や血液製剤を取り巻く訴訟、震災等の事例を調べ、そのイベントの特徴や対応の問題点などを整理しておく。加えて、昨今の医療安全および健康危機管理・災害対策、個人の健康管理政策の実態等についても書籍・インターネット等で調べておく。

9. 参考書

平成29年版防災白書（内閣府）など

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「1.4 医療保険論」「9.3 医学概論」と関連する。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

13. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月20日（月） 18:00～21:10	生活習慣や職環境等に起因する個人と社会の健康危機管理	谷川 武
2	5月22日（水） 18:00～21:10	健康危機管理について	金谷 泰宏
3	5月23日（木） 18:00～21:10	医療安全・社会安全対策総論／血液事業の危機管理および安全対策	菅河 真紀子
4	5月24日（金） 18:00～21:10	発表・総合討議など	河原 和夫 菅河真紀子

医療機関リスク管理

Risk Management in Medical Institutions

科目コード: 4022 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高橋 弘充	医学部附属病院薬剤部 部長	htakahashi.mpha@tmd.ac.jp
科目担当者	尾林 聡	医療安全管理部 部長	oba-gyne@tmd.ac.jp
	貫井 陽子	感染制御部 部長	y-nukui.infe@tmd.ac.jp
	田中 直文	武蔵野赤十字病院 医師	

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

- ・大学病院における医療リスク管理とメディカルリスク分析
- ・インシデントレポート分析
- ・医療機関における感染症対策と危機管理
- ・医薬品の適正使用

概要

医療機関における医療事故と感染症対策について講述する。医療安全管理部の組織と活動、医療事故の分析評価手法であるインシデントレポート、医薬品の適正使用、感染危機管理のフレームワーク、感染対策委員会・インфекションコントロールチームの組織と機能、感染症アウトブレイクに対する危機管理の実例とシミュレーションなどについて、講義・演習を行う。

4. 授業の到達目標

- ・医療機関におけるリスクマネジメントの実際を理解し、メディカルリスクマネジメントの手法を学ぶ。
- ・医薬品の関わるリスクと安全対策を理解する。
- ・医療機関における感染症対策と危機管理を理解する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

参加状況、授業での態度、レポートにより評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

教科書:特になし。

参考書:米国医療の質委員会／医学研究所「人は誰でも間違える」(日本評論社)

中島和江、児玉安司「ヘルスケアマネジメント」(医学書院)

河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラー」(医学書院)

10. 履修上の注意事項

「2. 1 医療と社会の安全管理」が国全体もしくは社会の安全管理を主として論ずるのに対し、本講では医療機関レベルでの問題にフォーカスを絞って述べる予定である。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取るにより、適宜これに対応する。

13. 備考

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	5月27日 (月) 18:00～21:10	医療機器の安全管理	田中 直文
2	5月29日 (水) 18:00～21:10	院内感染対策と危機管理	貫井 陽子
3	5月30日 (木) 18:00～21:10	医薬品の安全性	高橋 弘充
4	5月31日 (金) 18:00～21:10	病院における医療安全管理	尾林 聡

医療のTQM

Total Quality Management in Health Care

科目コード: 4023 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	棟近 雅彦	早稲田大学理工学術院 教授	munechika@waseda.jp
	小林 美亜	千葉大学医学部附属病院 特任教授	miak@mti.biglobe.ne.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療の質保証活動であるTQMの方法論およびクリニカルパスについての理解を深める。

概要

日本においても医療の質についての議論が行われるようになってきているが、社会が納得できるような意味での質保証は未だ十分には行われていない。ここでは、医療における質保証の基本的な方法論について習得し、またそれを実践する上での問題点について検討する。

4. 授業の到達目標

- ① 医療の質の要素について理解を深める。
- ② 医療の質保証の方法論とクリニカルパスについて修得する。
- ③ 日本における医療の質保証の現状について説明する。
- ④ 今後の医療におけるTQMの活動について議論できる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、参加状況(50点)および講義中に課す演習の評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

教科書および参考書などに目を通しておくこと。また、医療機関におけるTQM活動について情報収集しておくこと。

9. 参考書

教科書:

- ・上原、黒田、飯塚、棟近、小柳津「医療の質マネジメント～医療機関におけるISO 9001の活用～」(日本規格協会)2003年
- ・飯塚、棟近、上原「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO導入ガイド」(日本規格協会)2006年

参考書:

- ・高瀬、阿部 編「エビデンスに基づくクリニカルパス～これからの医療記録とヴァリアンス分析～」(医学書院)2000年
 - ・日本クリニカルパス学会編「クリニカルパス用語解説集 増補改訂版」(クリニカルパス学会)2014年
 - ・飯田修平「医療における総合的質経営」(日科技連)2003年
 - ・飯田修平、飯塚悦功、棟近雅彦 監修「医療の質用語事典」(日本規格協会)2005年
 - ・飯塚悦功、棟近雅彦、上原鳴夫監修「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO導入ガイド～」(日本規格協会)2006年
 - ・飯塚悦功、水流聡子「医療品質経営」(医療企画)2010年
- その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

系2の「医療の質の確保とリスク管理」全般との関連も深い、系10の「臨床研究・治験」との関連もある。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることに、適宜これに対応する。

13. 備考

医療管理の中核をなす科目であるため、十分に習得すること。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月18日 (月) 18:00～21:10	医療のTQM概論	高瀬 浩造
2	11月19日 (火) 18:00～21:10	医療の質マネジメント	棟近 雅彦
3	11月20日 (水) 18:00～21:10	クリニカルパス	小林 美亜
4	11月21日 (木) 18:00～21:10	医療のTQM実践	高瀬 浩造

医療機能評価

Evaluation of quality and reliability of health care system

科目コード: 4024 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	河原 和夫	政策科学分野 教授	kk.hcm@tmd.ac.jp
科目担当者	菅河 真紀子	政策科学分野 特任助教	sugawa.hcm@tmd.ac.jp
	河北 博文	社会医療法人 河北医療財団 理事長	hiro@kawakita.or.jp
	藍 真澄	保険医療管理学分野 教授	aivasc@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

戦後、我が国の医療提供体制は量的な整備を中心に進められてきた。しかし近年、医療安全や医療の質、そして患者対応等のいわば質的な保証を望む声が強くなってきた。それにとまってこれらの事項を測る適切な指標の確立についても研究等が精力的に進められている。講義では医療機能評価の前提となる医療の量的・質的要件の考え方、経済的・財政的・診療報酬的観点からの評価、評価指標および評価方法等の諸問題、ならびに医療従事者および患者双方の立場から医療機能を向上させる方策についても検討する。また、具体的事例として医療機能評価機構などで実施されている病院機能評価の実態、評価に関連する統計資料をもとにわが国の病院機能評価の現状と問題点を理解する。特に、誰のために何を目的とした評価なのか、患者・家族の立場、医療関係者ならびにその他の関係者・関係団体の立場からも問題点や必要性を指摘できる能力を養い、理解を深めていく。そして、将来の最適な病院機能評価のあり方が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

概要

病院機能評価に関わる理念、目的、指標、方法、受益者、関係者の役割などを理解するために現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した病院機能評価のあり方を論じる能力を身につける。患者の視点から医療を捉えることにも心がける。

4. 授業の到達目標

- ① 医療機関が患者・家族、地域住民及び関係者から求められている役割や使命を理解する。
- ② 各種医療関連データから病院機能評価にふさわしい指標や評価の仕組み、方法ならびに誰が何のために評価するのかを理解する。
- ③ 病院機能評価が始まった歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
- ④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
- ⑤ 医療機関および医療人の役割の理解を通じて医療システム全体を評価できる資質を養う。

5. 授業方法

講義形式、討議、発表、事例検討などによる。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

成績評価は、テスト結果または提出されたレポート内容(30点)と参加状況(70点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

日本医療機能評価機構、厚生労働省、研究報告等で医療機能評価の概要、関係者の取り組み、問題点など現在の状況を調べておく。

9. 参考書

参考書: 日本医師会・厚生省健康政策局指導課「病院機能評価マニュアル」(金原出版)
Restructuring Hospital Quality Assurance: The New Guide for Health Care Providers Jean Gayton Carroll
参考サイト:

(財)日本医療機能評価機構ホームページ「<http://jcqhc.or.jp/html/index.htm>」

JCAHO (Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations) ホームページ「<http://www.jcaho.org/>」

AHRQ (Agency for Healthcare Research and Quality) ホームページ「<http://www.ahrq.gov/>」

その他必要に応じて指示する。

10. 履修上の注意事項

「1.1 医療提供政策論」「2.2 医療機関リスク管理」「2.3 医療のTQM」などMMAの中の多くの科目と関連する。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

毎週月曜日午後17:00～18:00

科目責任者 河原和夫教授室(M&Dタワー16階)

13. 備考

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月10日 (月) 18:00～21:10	日本医療機能評価機構の活動	河北 博文
2	6月11日 (火) 18:00～21:10	医療機関および医療人の役割とその評価	河原 和夫
3	6月12日 (水) 18:00～21:10	医療機能評価概説、発表・総合討議など	河原 和夫 菅河真紀子
4	6月13日 (木) 18:00～21:10	医療保険制度からの評価	藍 真澄

病院情報管理学

Hospital Information Management

科目コード: 4041 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	松浦 亨	北海道大学大学院社会医療管理学、北海道大学病院 臨床教授	macchan@med.hokudai.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

医療機関が取り扱う情報の管理方法について網羅的に習得する。

概要

病院が取り扱う情報の種別および量は近年大幅に膨張しており、その管理について医療機関の責任が問われてきている。ここでは、病院情報を診療情報と区別するため、医療機関が扱う情報のクラスであると定義し(診療情報はインスタンスと定義される)、管理すべき緊急度の高い情報種別を中心に議論する。また、情報の使用目的、個人情報保護との係わり、病院情報システムについても理解を深める。

4. 授業の到達目標

- ① 病院が管理する情報の範囲と種別を規定して、認識を深める。
- ② 病院情報と診療情報との意味論的な相違点を確認する。
- ③ 病院情報がどのように利用されるのかについて検討する。
- ④ 今後病院情報を管理する上での問題点について検討する。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ①情報の定義、種別と範囲
- ②病院情報の管理とは
- ③病院管理・経営に必要な病院情報インスタンス
- ④公的に要求される病院管理情報
- ⑤個人情報保護法と病院情報安全管理
- ⑥病院情報システムの概要

7. 成績評価の方法

成績評価は、参加状況(50点)および講義中に課すレポートの評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に無いが、医療機関での情報管理の実態について考察しておくこと。また、情報理論の一般知識を持っていた方が理解しやすいので、簡単に一般書レベルで構わないので、目を通しておくこと。

9. 参考書

参考書: 福田剛久・高瀬浩造 編「医療訴訟と専門情報」(判例タイムズ社)

10. 履修上の注意事項

「4.2 診療情報管理学」。その他の大半の授業科目での情報ソースに対応している。積極的な議論参加が要求される。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることで、適宜これに対応する。

13. 備考

積極的な議論参加が要求される。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	6月6日 (木) 18:00～21:10	大学病院での病院情報インスタンス	松浦 亨
2	7月2日 (火) 18:00～21:10	情報管理の基礎	高瀬 浩造
3	7月3日 (水) 18:00～21:10	医療機関における情報管理	高瀬 浩造
4	7月4日 (木) 18:00～21:10	医療分野での情報化	高瀬 浩造

診療情報管理学

Health Information Management

科目コード:

4042

1年次

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	阿南 誠	川崎医療福祉大学 准教授	
	清水 沙友里	医療経済研究機構 主任研究員	shimizu@ihep.jp
	桑原 比呂世	千葉大学医学部附属病院 特任准教授	bxx03410@nifty.com

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

診療情報その管理の概容を理解するとともに、診療情報を活用した様々な医療評価手法を理解することを目的とする。

概要

診療情報管理、診断群分類、包括評価、厚生統計等に関する最新の資料を配付し、プレゼンテーションを用いて講義を行った上で、質疑応答や学生の実務上の経験や意見に基づく討論等で理解を深める。配布使用予定の資料としては、ICD10コーディングのガイドライン、診断群分類DPCに関する中医協資料抜粋と厚生労働省研究班報告書抜粋、包括評価対応のためのマニュアル、厚生労働省諸統計の概要と研究報告書抜粋、諸論文の抜粋等を予定している。

4. 授業の到達目標

- ① 診療情報管理の概念とその実務を理解すること。
- ② 診断群分類および包括評価の概念と実務およびそれらの医療管理評価への応用を理解すること。
- ③ 診療情報、統計情報等のデータマネジメントと研究的活用方法を理解すること。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

第1日: 診療情報管理総論、診療録管理の理論と実務、傷病名コーディングの理論と実務、診療報酬関連情報管理の実務、診断群分類の導入と効率的診療情報管理等に関する講義と討論(阿南講師)

第2日: 診断群分類の理論と国際比較、日本版診断群分類DPCと包括評価の理論と実務、診断群分類を用いた医療管理の理論と実際等に関する講義と討論

第3日: DPCデータの構造と意味(清水講師)、DPCデータ等の医療業務データの分析手法(桑原講師)

第4日: 診断群分類を用いた医療の評価、我が国の医療提供体制の評価への診断群分類の応用、地域医療資源配分計画、地域保健医療計画と診断群分類等に関する講義と討論

7. 成績評価の方法

成績評価は提出レポート内容(50点)と参加状況(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

診療記録関連の法的背景、診療録の電子記録、診療記録の作成技法等については触れる時間がほとんど無いため、他講または参考書にてその概略を理解しておくことが望ましい。

9. 参考書

参考書:「診療情報による医療評価. DPCデータから見る医療の質」.(東京大学出版会)
「DPCデータ活用ブック・第二版」(じほう社)
「21世紀の医療と診断群分類」(じほう社)
「DPCと病院マネジメント」(じほう社)
「疾病、傷害および死因統計分類提要」第2巻(厚生統計協会)
「経営力・診療力を高めるDPCデータ活用術」(日経ヘルスケア). 等

10. 履修上の注意事項

医療提供体制の設計と評価の点で「1.1 医療提供政策論」と、診療情報の電子化や病院システムとの関連で「4.1 病院情報管理学」と関連すると考えられる。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

平日10時より18時

13. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	7月16日 (火) 18:00～21:10	診療情報管理の基礎・診療情報分析総論	伏見 清秀 阿南 誠
2	7月17日 (水) 18:00～21:10	医療情報の標準化とDPC診断群分類包括 評価	伏見 清秀
3	7月18日 (木) 18:00～21:10	DPCデータと診療情報分析手法	清水 沙友里 桑原 比呂世
4	7月19日 (金) 18:00～21:10	診療情報を用いた医療評価	伏見 清秀

衛生工学・汚染管理

Health Engineering and Contamination Control

科目コード: 4062 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	湯浅 和博	東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授	yuasa.k.aa@m.titech.ac.jp
科目担当者	鍵 直樹	東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授	kagi.n.aa@m.titech.ac.jp
	伊藤 昭	(株)日建設計 設備設計部 技術長	ito.akira@nikken.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

本科目では、以下の点を含めた汚染管理の基礎的知識を修得させることを目的とする。

- ・病院施設の汚染管理の原則
- ・空気汚染物質と空気清浄
- ・病院建築計画と感染管理

概要

医療施設における衛生的環境の確保は、病院内感染の予防に向けた重要な課題である。本科目では、施設の汚染管理の面から、汚染管理の原則、隔離手法、汚染源と汚染物質、空気清浄と空気調和、水利用、クロスコンタミネーションの防止、病院の廃棄物と処理、エネルギー管理などについて講述する。

4. 授業の到達目標

医療施設の管理運営や医療政策の実務を専門とする者は、医療施設内の衛生に関わる工学の基礎的知識を有し、汚染管理の基本理念を理解している必要がある。本科目では、建築学や経営管理学などの工学分野における学部教育に準じた知識の修得を目標とする。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

- ① 病院施設の汚染管理の原則(湯浅)
- ② 空気汚染物質と空気清浄(鍵)
- ③ 建築計画と感染防止の考え方(伊藤)
- ④ 感染防止の具体、ほか(伊藤)

7. 成績評価の方法

講義への参加状況(30%)、演習(20%)、レポート(50%)により評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特に必要は無いが、講義に伴う演習等の復習を必要とする。

9. 参考書

未定

10. 履修上の注意事項

汚染管理には施設・設備の設計が大きく関わるため、「6.1 病院設計・病院設備」を履修していることが望ましい。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることであり、適宜これに対応する。

13. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	9月30日（月） 18:00～21:10	病院施設の汚染管理の原則	湯浅 和博
2	10月1日（火） 18:00～21:10	空気汚染物質と空気清浄	鍵 直樹
3	10月2日（水） 18:00～21:10	建築計画と感染防止の考え方	伊藤 昭
4	10月3日（木） 18:00～21:10	感染防止の具体	伊藤 昭

戦略と組織

Business Strategy and Organization

科目コード: 4071 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	林 大樹	一橋大学大学院社会学研究科 教授	h.hayashi@r.hit-u.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

次の2つの課題について、組織の責任者として自ら深く考えるための枠組みを提供すること。

- ① 組織のリーダーとして、組織のミッションと目標をどのように定めるか。
- ② 組織目標を実現していくための「戦略」をどうつくるか。

概要

授業は担当教員による講義といくつかのグループに分かれてのクラス討議とで構成する。

4. 授業の到達目標

経営環境の複雑な変化を的確に把握し、時代状況に適合した経営体の使命(ミッション)を確立し、その意義を経営体の構成員にわかりやすく説明する能力を獲得するため、すぐれた経営の戦略と組織について深く考える。

5. 授業方法

講義およびケースを使ったグループディスカッションによって行う。

6. 授業内容

講義のテーマは以下を予定している。

- ① 戦略の基本的な考え方
- ② 組織の基本的な考え方
- ③ ヘルスケアにおけるビジネスモデル
- ④ ヘルスケアにおける組織デザイン

7. 成績評価の方法

成績評価はグループ・ディスカッションとプレゼンテーション(協同学習)への参加・貢献状況(50点)と提出レポートの内容(50点)を総合して評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

指定された読み物をきちんと読んでください。

9. 参考書

教科書はない。参考書は授業の中で紹介する。

10. 履修上の注意事項

「8.1 人的資源管理」「8.2 人材の開発と活用」などと特に関連が深い。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

担当教員に個別相談を希望する学生は、授業時に教員に直接相談するか、大学院教務事務室に相談すること。

13. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	10月8日（火） 18:00～21:10	戦略の基本的な考え方	林 大樹
2	10月9日（水） 18:00～21:10	組織の基本的な考え方	林 大樹
3	10月10日（木） 18:00～21:10	ヘルスケアにおけるビジネスモデル	林 大樹
4	11月1日（金） 18:00～21:10	ヘルスケアにおける組織デザイン	林 大樹

医療におけるリーダーシップ論

Leadership in the Medical Institution

科目コード: 4083 1年次 1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	田中 雄二郎	臨床医学教育開発学分野 教授	ytanaka.merd@tmd.ac.jp
科目担当者	高橋 誠	臨床医学教育開発学分野 講師	takahashi.merd@tmd.ac.jp
	岡田 英理子	臨床医学教育開発学分野 講師	eriko.gast@tmd.ac.jp
	井津井 康浩	医学部附属病院総合教育研修センター 講師	yitsui.gast@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

激変する社会環境の中で、法的、倫理的制約の多い医療機関を一定の方向に導くリーダーシップを学ぶ。

概要

病院は様々な専門職から構成される組織体であり、管理者はそれを一方向に導くことが求められる。医療制度が流動的な中、病院管理者には、先見性と統率力が求められる。大学病院および地域中核病院において行われた改革のケースを分析し方法論を抽出し、さらに近未来の医療の世界を俯瞰し求められるリーダーシップを論ずる。

4. 授業の到達目標

- ・リーダーシップに関する一般論を理解する。
- ・リーダーシップを効率的に発揮するための方法論を理解し応用できる。
- ・医療機関におけるリーダーシップの特殊性を理解する。
- ・リーダーシップの在り方の多様性を理解し説明できる。

5. 授業方法

講義およびグループ討論形式による。

6. 授業内容

I) リーダーシップとは

リーダーシップに関する一般論を提供した後、医療におけるその特殊性について討論を行う。

II) リーダーシップを発揮するための方法について

前項での議論に基づき、いかに効果的にリーダーシップを発揮するかについて、①現状分析、②ネットワーク形成、③目標の確立、④意識改革、⑤組織変更について論ずる。

III) リーダーシップの実践について

リーダーシップのあり方は、リーダー自身の個性、能力により様々な形態をとることをCase Studyを通じて論ずる。

7. 成績評価の方法

授業中に提示された課題について、A4用紙1枚程度のレポートを授業終了後に提出してもらう。
レポート内容(60点)と参加状況(40点)を総合して成績を評価する。

8. 準備学習等についての具体的な指示

特になし。

9. 参考書

小倉昌男 「経営学」(日経BP社)1999年刊

10. 履修上の注意事項

本科目と関連の深い科目として次の科目がある:「7.1 戦略と組織」「8.1 人的資源管理」「8.2 人材の開発と活用」

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

随時Eメール(sec1.dgm@tmd.ac.jp)で対応

13. 備考

討論を主体とするため、教室の変更もあり得るので連絡に注意すること。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	12月9日 (月) 18:00～21:10	リーダーシップ総論／ケーススタディ①	田中 雄二郎
2	12月10日 (火) 18:00～21:10	ケーススタディ②	小松本 悟
3	12月11日 (水) 18:00～21:10	ケーススタディ③	川崎 つま子
4	12月12日 (木) 18:00～21:10	ケーススタディ④／リーダーシップ総括	高橋 誠／田中 雄二郎

健康情報データベースと統計分析

科目コード:

4102

1年次

1単位

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	高瀬 浩造	研究開発学分野 教授	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
科目担当者	水嶋 春朔	横浜市立大学大学院情報システム予防医学部門 教授	shunsaku@yokohama-cu.ac.jp

2. 主な講義場所

M&Dタワー13階 大学院講義室2

3. 授業目的・概要等

授業目的

健康政策におけるデータ解釈の基本方針を理解するとともに、統計処理の意義と基本的な手法について理解する。

概要

基本知識としての統計学的技法を説明した後、生物統計における2つの異なる潮流、すなわちピアソン型の質管理を重視した記述統計学とベイズ型の主観確率を重視した統計学について理解を深める。応用として医療政策の前提となる、診断、治療、医療の質の評価、医療の安全性、疫学、健康情報データベースにかかわる情報を収集して、的確に解釈し意思決定に反映させるための基礎知識と技術、統計法、公的統計の体系と整備について概説する。また、健康情報データベースによる根拠に基づいた健康政策のありかたについて議論する。

4. 授業の到達目標

- ・医療管理・政策に必要な統計学の基本を理解する。
- ・臨床疫学に必要な記述統計的手法を説明できる。
- ・臨床推論における主観確率論を理解する。
- ・研究における質保証に係わる統計的手法について説明できる。
- ・行政の実施している各種衛生統計の意義を説明できる。
- ・最新の医療・健康情報を収集し、科学的に解釈することができる。

5. 授業方法

講義形式によるが、一部演習を含む。

6. 授業内容

- ① 医学基本統計学
- ② 生物統計学におけるネイマン・ピアソン統計学とベイズ統計学
- ③ デジタルデータとアナログデータ
- ④ 衛生統計学と健康情報データベースに基づく政策決定

7. 成績評価の方法

成績評価は参加状況(50点)および講義中に課す課題あるいは演習の評価(50点)の総合評価による。

8. 準備学習等についての具体的な指示

基礎的な基本統計学の知識を有していることを前提としている。

9. 参考書

教科書:統計学の教科書は特に指定しないが、各自で準備すること。

参考書:上畑鉄之丞 監訳「根拠に基づく健康政策のすすめ方」(医学書院)2003年

10. 履修上の注意事項

すべての医療系分野、特に医療疫学と密接に関連する。「9.3 医学概論」の概念分析とも関連する。

11. 英語による授業

全て日本語で行う。

12. オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めないが、授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることであり、適宜これに対応する。

13. 備考

特になし。

別表

回数	授業日時	授業内容及び開催場所	担当教員
1	11月25日 (月) 18:00～21:10	根拠に基づく健康政策	水嶋 春朔
2	11月26日 (火) 18:00～21:10	基本統計学	高瀬 浩造
3	11月27日 (水) 18:00～21:10	統計学的推論・検定	高瀬 浩造
4	11月28日 (木) 18:00～21:10	統計学の応用	高瀬 浩造

ワークショップ形式による学習成果発表と 総合討論

(Presentation of Achievements)

科目コード:

9401

7時間

1. 担当教員

	名前	分野・職名	連絡先
科目責任者	伏見 清秀	医療政策情報学分野 教授	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
科目担当者	森脇 睦子	医学部附属病院クオリティ・マネジメント・センター 特任講師	mmoriwaki.qmc@tmd.ac.jp

2. 主な講義場所

別表のとおり。

3. 授業目的・概要等

授業目的

本コースの全授業を通して学習した成果を確認し、今後の活用方法を身につけることを目的とする

概要

- ・個別病院の医療の総合的な課題に関するデータ分析
- ・分析結果と解決手法提案の発表(各20分)と総合討論

4. 授業の到達目標

- ・個別病院の医療データを用いて、包括的な課題を明らかにすることができる能力を身につける。
- ・様々な課題に対して、その解決のための具体的な手順を提案し、PDCA手法に基づく実行を主導することができる。

5. 授業方法

講義形式による。

6. 授業内容

別表のとおり。

7. 成績評価の方法

出席(20%)、発表内容(40%)およびレポート(40%)を総合的に評価する

8. 準備学習等についての具体的な指示

9. 参考書

「医療の質の標準化と改善」(南山堂)

10. 履修上の注意事項

11. オフィスアワー

平日10時から18時

12. 備考

別表

授業日程(12月15日)

- ・受講者各自が本コース開始時に設定した年間検討課題等について、年間の授業成果を活かして、分析、検討を行い、発表資料を準備する。
- ・年間の学習内容を総括し、課題研究等について発表を行う。参加者とともにディスカッションを行い自施設での応用などにつき議論を深める。

東京医科歯科大学における履修証明プログラムに関する規則

〔平成 22 年 1 月 6 日〕
規 則 第 1 号

（趣旨）

第 1 条 この規則は、学校教育法第 105 条及び学校教育法施行規則第 164 条の規定に基づき、東京医科歯科大学（以下「本学」という。）における履修証明を行うプログラム（以下「履修証明プログラム」という。）に関し必要な事項を定める。

（履修証明プログラムの編成）

第 2 条 履修証明プログラムは、主に本学の学生以外の者を対象とした体系的な知識・技術等の習得を目指した課程とする。

2 履修証明プログラムは、本学が開講する講習若しくは授業科目又はこれらの一部（以下「授業科目等」という。）により体系的に編成するものとする。

3 履修証明プログラムの総時間数は、120 時間以上とする。

（履修証明プログラムの開設）

第 3 条 履修証明プログラムは、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成 16 年規程第 1 号）に定める部局及びセンター（以下「部局等」という。）が開設することができる。

（履修資格）

第 4 条 履修証明プログラムの履修資格は、東京医科歯科大学学則（平成 16 年規程第 4 号）第 11 条各号及び東京医科歯科大学大学院学則（平成 16 年規程第 5 号）第 27 条各号のいずれかに該当し、本学に入学する資格を有する者のうちから、履修証明プログラムを開設する部局等（以下「開設部局等」という。）において定めるものとする。

（担当教員）

第 5 条 履修証明プログラムにおける授業科目等を担当する者は、本学の教員とする。

2 前項の規定にかかわらず、本学が必要と認める場合は、授業科目等の一部を前項に規定する者以外の者に委嘱することができる。

（履修証明プログラムの届出及び公表）

第 6 条 開設部局等の長は、当該開設部局等の教授会、又は研究科委員会等の議を経て、履修証明プログラムの名称、目的、総時間数、履修資格、定員、内容、講習又は授業の方法、修了要件、受講料その他学長が必要と認める事項をあらかじめ学長に届出なければならない。

2 開設部局等の長は、届け出後に前項に掲げる事項に変更が生じたときは、その旨を学長に届出なければならない。

3 学長は、前 2 項の届出があったときは、第 1 項に掲げる事項を公表するものとする。

（履修の許可）

第 7 条 履修証明プログラムの履修の許可は、開設部局等の教授会又は研究科委員会等の

議を経て開設部局等の長が行う。

（受講料）

第 8 条 履修証明プログラムの受講料は、別に定めるところによる。

（記録の作成と管理）

第 9 条 開設部局等は、履修証明プログラムの履修者の学籍その他教務に関する記録を作成し、管理しなければならない。

（履修証明書の交付）

第 10 条 履修証明プログラムを修了した者に、修了の事実を証明する証明書（以下「履修証明書」という。）を交付するものとする。

2 履修証明書の様式は別紙様式のとおりとする。

（実施体制の整備）

第 11 条 開設部局等は、履修プログラムの編成及び履修証明プログラムの課程の実施状況の評価並びに履修証明書の交付を行うために必要な体制を整備しなければならない。

（雑則）

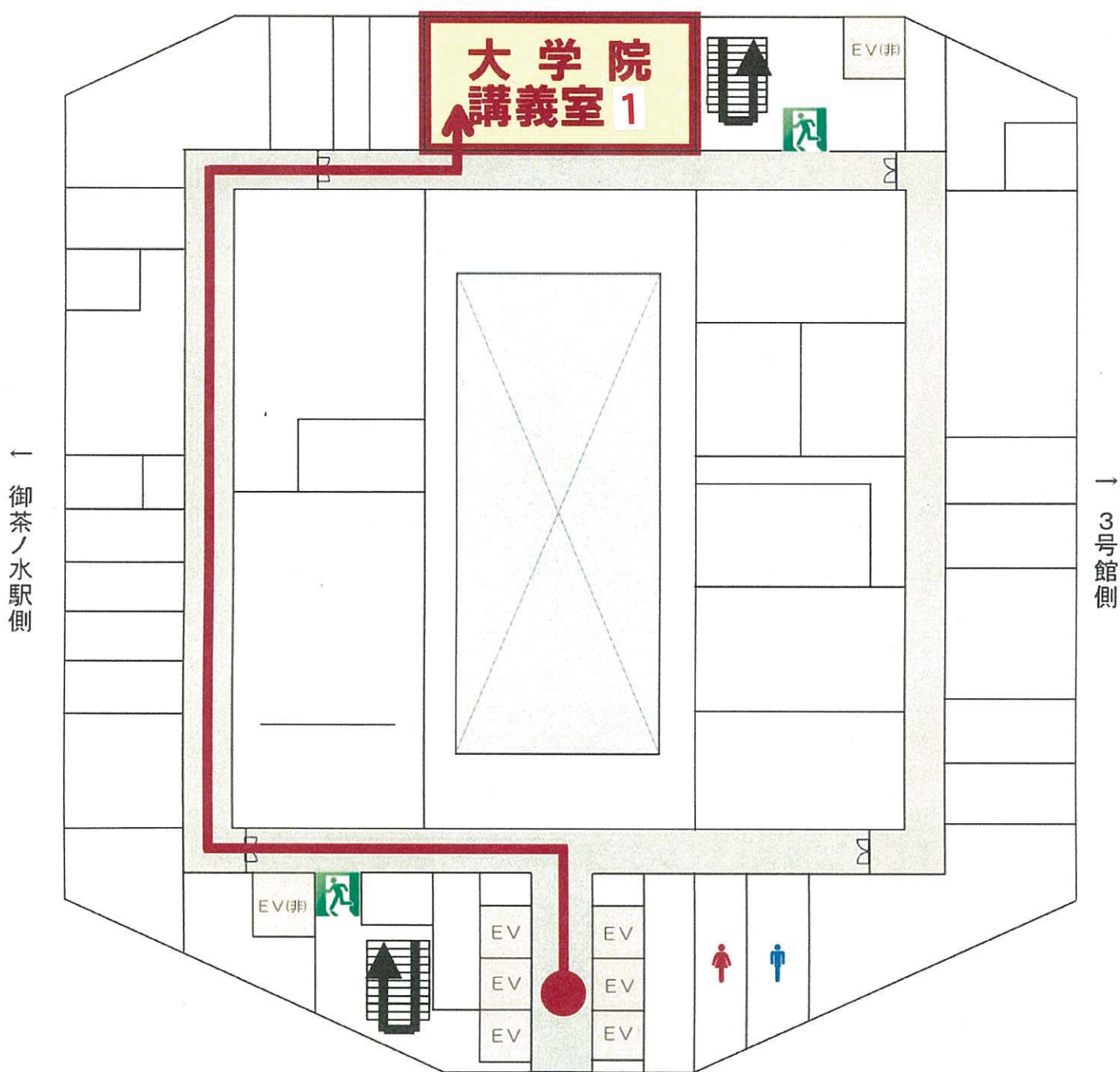
第 12 条 この規則に定めるもののほか、履修証明プログラムの実施に関し必要な事項は、開設部局等の長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

PDCA医療クオリティマネージャー養成プログラム 講義室
(M&Dタワー21階 大学院講義室1)

※MMA講義はM&Dタワー13階大学院講義室2で実施します。



M&Dタワー21階